

第1回 余市町立学校適正配置等検討委員会会議録

1. 日 時 令和4年8月29日（月） 午後6時から午後8時
2. 場 所 余市町役場3階301号会議室
3. 出席委員 河森計二委員（委員長）、彫谷泰嗣委員（副委員長）
高橋伸吾委員、水島希望委員、明村秀之委員、山下秀一委員
茂野栄司委員、栗原有希委員、角井 敦委員、高見伸吾委員
4. 欠席委員 西岡知洋委員、寺井一哉委員
5. 事務局 前坂教育長、中村教育部長、内田学校教育課長、本間主幹、兼重係長
6. 会議の概要

【教育長挨拶】

【検討委員会委員及び事務局紹介】

【委員長及び副委員長の選出】

委員長に河森委員、副委員長に彫谷委員を選出

【諮 問】

【審 議】

①少子化が進む中での教育環境の望ましい姿とは

②検討にあたって考慮すべき視点は何か

（委員） 小学校については、クラス替えもなく、同じ人間関係が続くのはどうなのか。中学校については、まず部活動が余市町は非常に困っている。当然クラス替えができる環境はやはり必要では。教員の面では、中学校が小さくなってくると、その教科を担当する人間が1人になり、職員間での学びが非常に薄くなる。施設面では、大川小、黒川小は特にもう限界である。教員の体制や部活動といったソフト面と、学校の施設というハード面に問題があり、対応が限界にきているのが実情ではないか。

（委員） 4ページ目に書いてある「学校教育では、少子化が進む中でも、児童生徒が集団の中で多様な考えに触れることを通じて、社会性や……」ということは、皆さん納得されているのでは。小さな規模の学校の良さはあるが、何かを得るには何かを失わなければならないという考え方から、大きく方向を決めていくべきではないか。

（委員） 今回の資料を見る限り、ここは大きく2つの要素を決める場だと認識している。1つは具体的な数や仕組み、少子化に伴って統廃合を決めていかなければいけないということ。もう1つは、新しい時代の学びを実現する学校施設をつくること。本町の場合は、たまたまこの2つが同じタイミングで起きている。これを実現するにはスキルの高い人材、リーダーシップが必要である。やはり一番上に立つリーダー、校長先生や教育委員会が、大きな枠で引っ張っていけることが一番大事。

（委員） 施設について、予算がなく、なかなか修繕できない部分もたくさんある。そういったことが、児童生徒にも不便をかけている部分も多々あると感じる。統合にあたっていろいろなデメリットはあると思うが、ハード的なデメリットは何かしら解決

策を出していけないのではないか。統合の方向で進めていき、デメリットの部分を皆さんと議論して解決策を出していったほうがスムーズではないか。

(委員) 例えば都心部で学校施設が整っている環境に通わせたいという、親の意見がきつと多くあると思う。田舎と比べて都会ならハイレベルな教育が受けられるといったことも、町外に転出してしまふ要因の1つになる。私たちの小さい頃は部活動もいろいろ選択肢もあったが、今は現実的に部活動1つもやれない。今回のお話を聞いた正直な肌感覚としては、これはいい機会だ、統合しか道はないのでは、と個人的に思っている。アンケート等で結果がよく見えてくると思うので、ぜひ未来に向かって意見をどんどん交わしていければいい。

(委員) 今回の資料では子どもたちの人口推計が出ている。将来、本当に学校が成り立つのか、という愕然とするような結果が見える。そういう中で、統合することも仕方ないのかなと思う。ただ、地域コミュニティということで考えると、学校というのは非常に大きな力を持っている。ただの施設といっても、あらゆる世代の人々が絡む。そういう面では、将来、余市町にどういうふうな配置するのか気になる。今はまだ、私のイメージの中に従来型のものしかない。これから皆さん方の意見を聞きながら私なりに考えたい。

(委員) 少年団で聞いてみたところ、やはり「統廃合が、何となく理想的なのではないか」という意見が多かったように思う。デメリットというところは大きいと。1クラスの学校で学んでいた子が、逃げ場がないという状態で苦しい思いをしているのも何度となく見てきた。クラス替えで少し逃げ道になるようなこともあるのでは。また、学校の施設の課題は大きいと思う。どこが悪いと言い始めるときりがない。これがいい機会になる。学校を全部直すというのは不可能。1つにまとめたり、1つ新たなものを建てたりできるのは、逆にいい機会なのではないか。

(委員) 何かあったときに、違うところに逃げることができず、学校に行けない、そういう子が今いないわけではないと思う。こういった検討をやったほうがいいのでは、とずっと思っていた。数年前にアンケートがあり、そろそろ検討するのかな、とも思っていた。学校も古いので、どこの学校を残すか、という議論ではなく、新しい学校にできれば、予算との兼ね合いはあると思うが、そこでこれからは子どもたちを見ていければと思う。

(委員) 学校の問題についても少子化の問題についても、本当にまちづくりとは切っても切れないと考えている。2019年に余市町PTA連合会独自で小中学校の適正配置に関するアンケートを出した、意義のあるアンケートだったと思う。教育に力を入れている地域には人口が集まってくる、生産世代の人が集まってくるというデータもある。新しい学校をやる場合には、ハードも学びも新しくしていかなければ駄目と思う。この委員会は今後の教育環境について検討するいい場だと思う。統合は早急に決定して、ハードや学習内容、教育内容は十分に検討すべきかと思う。

(委員長) 1点目について話をしていただいた。ご意見の中では、実は2点目も含まれていたと思う。今回のご意見を頂きたい事項の中では、この1点目と2点目がやはり重要である。ご意見を頂いた中では、統廃合を進めていく方向性というのは共通した理解と聞いていた。今の子どもたちの現状と、将来の子育て、地域としてどういう子どもを育てていきたいかも含めて、様々な視点からご意見を頂きたい。

(委員) 新しい学校ができて、その学校の図書館がそのまま地域の図書館となったら、優

秀な司書が学校のすぐそばにいる、地域の方も本を借りに来て、そこでまた交わるというのもすてきな姿だと思う。プールについても、学校がプールを使う時間は本当に限られているので、地域のプールでいろいろな人が来れば、今度は学校がプールのお手伝いなど頼みやすくなるかもしれない。地域の方にどんどん入ってきてもらう、そして、学校教育に力を貸してくれる、そんなことをイメージした学校づくりもできたらいいなど。

(委員) これまでの経験で思ったことは、理念が統一されているということがすごく大切ということ。地域のヒト・コト・モノの活用とか、コミュニティとか、費用の問題とか、安全・安心とか、いろいろなことの根拠や目指すところ、つまり「なぜそれが必要なのか」という部分。「我々がこんな人を育てたいからです」という部分に持って行って、最終的に答申を町に提出しなければならない。余市町が考える、どんな人を育てたいのか、そのためにどうしたいのかということが、検討にあたって考慮すべき視点だと思う。

(委員) 会津の中学生が余市に来て、地域の問題について子どもたちの考え方を発表する場があったが、「ならぬものはならぬ」という教育理念を、口をそろえて言っていた。私たちの町にも、教育に限ったものではないが町民憲章というものがある。教育やまちのいろいろなものについて、目指す方向の概念的なものを位置付けられるのでは。子どもたちを育てるお父さんお母さんや、これから余市を背負っていく人たちが、どう考えているかすくい上げていくことが一番大事かと。

③どんなプロセスで検討を進めるべきか

(委員長) 検討のプロセスについては、35 ページにも示されている。なかなか（意見するの）難しいところがあると思う。事務局から、今回の話を通じて、このプロセスに付け加えるところがあるかどうか出していただいてからのほうがいいかもしれない。まず事務局の意見を伺うということで、よろしいか。【異論なし】

④保護者アンケートの設問で追加すべき視点

(委員) 問7を聞くのであれば、1つにするのか、どこの地域に建てるべきなのかまで踏み込んだほうがいいのか。

(委員) 例えば今回は大枠で、統廃合について本当にどう思っているのか聞いて、次のアンケートで、それについて詳しく、と分けて聞くほうが良いのでは。結局全部聞こうとして回答率が低くなってしまったら本末転倒になる。

(委員) アンケートの問10の小中一貫教育の関連で、本町としてそういう選択肢もあり得るということでの考え方なのか。

(事務局) 既存の学校に統合する方法もあるが、義務教育学校も選択肢の一つとして検討していきたいということでアンケートに載せさせていただいた。

(委員) アンケートに別途配布する資料について、何となく統廃合賛成派、といった感じの観点からの配布というふうに見られがちに思う。少数派や、小規模校がいいと思われる方の観点から見ても中立的な資料であるべき。

(事務局) アンケートの発送時期は9月中旬の前半を予定している。中立的な資料ということで、検討していきたい。最終的なアンケートは各委員に送付する。本日配布した資料は、町のホームページで閲覧できるようにしたい。